

	チェック項目	現在の取り組み内容・今後の改善目標
環境・体制整備	職員の配置数は適切であるか	・配置数としては基準以上ではありますが、職員の休みが重なることで職員体制が厳しい日もありました。基準等について職員へ周知を図り、今後の運営の工夫について全体で検討をしていきます。
	生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間になっているか。	・設備面については、そもそもの老朽化もありますが、まずは引き続き事業所内で可能な範囲の工夫を実施していきます。さらに、豊中市と今後も課題の共有を続け、今後も子どもたちに合わせたよりよい環境づくりをともに考えていきます。
業務改善	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	・正職員は月に1回、業務改善について話し合う会議を持ち、定期的に業務の効率化などに取り組んでいます。パート職員の中には短時間勤務の方もおられることから会議参加が難しいという現状があります。業務改善について皆で取り組むことができるような工夫を考えていきます。
	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を公開しているか	・職員に向け「事業所の自己評価→改善について検討→結果を公開」の流れを改めて周知していきます。
適切な支援の提供	児童発達支援計画には、「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援が設定されているか	・特に「地域支援」について、こども園の園庭開放同行を実施しました。就園や就学先に向けての移行支援に関して、どのように情報共有をするか検討、実施を重ねていきます。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	・バス添乗や研修、会議などにより、全体での打ち合わせが難しい日もありますが、情報共有がしやすくなるよう、ICTを活用した情報共有の仕組みを今年度取り入れました。今後も、有効な活用方法を検討していきます。
関係機関	こどもの主治医や協力機関と連絡体制を整えているか	・児童発達支援センター診療所の医師が、年2回の内科健診を実施しています。また、児童発達支援センターの保健師と、お子さまの保健に関する情報を共有するようにしています。
	自立支援協議会や子育て支援会議等に積極的に参加しているか	・社会福祉協議会による「市北西部地域福祉支援ネットワーク会議」には、毎回参加をして、地域の情報を把握するようにしています。職員への周知を図り、今後も継続して参加をしていきます。
保護者への説明責任等	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	・保健師からの問い合わせや、こども安心課との連携など、個別に応じて対応をしています。また、ICTを活用し、記録した内容を正職員にはすぐに共有できるような仕組みとしました。今後もより共有しやすくなるような工夫を考えていきます。
	他の発達支援センター等との専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	・豊中市立児童発達支援センターと連携をとり、定例会議や医師巡回の場を活用して連携し、助言を受けています。
非常時の対応	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	・今年度は食物アレルギー対応がなかったため、周知に限りがありました。豊中市から引き継ぎを受けた内容に沿って、対応する準備をしています。
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	・保護者への説明等については、親子通所の機会を活用し、お子さまそれぞれに必要な配慮等について共有をするようにしています。 ・法人内の権利擁護虐待防止委員会および身体拘束適正化に職員が複数で参加し、虐待防止についての共有を定期的に行っています。